

平成 29 年度の事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日から 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法「居場所」創造プロジェクト

1. 事業の成果

オープンから 5 年目を迎えた 29 年度は、会員、支援員、各種団体等の支援・協力のもと、東日本大震災現地 NPO 応援基金及び岩手県 NPO 等復興支援事業等の助成活用や視察研修及び企業セミナーに参加し、居場所ハウスの組織・運営基盤整備及びコミュニティの形成と文化の継承等の各種事業を積極的に展開してきたところです。

「居場所ハウス」の来訪者の中心は末崎町の高齢者ですが、放課後や休日には子供たちが遊びに來たり、町外からの来訪者及び多世代の人々が各種講習会・教室・催事等に多くの参加・来場があり、一日平均の来訪者数は 26.3 人となっています。(来訪者数 8,006 名、別紙参照)

(1) 組織・運営の継続強化

① 会員・支援メンバーの協力・確保及びパート雇用によるサポート

29 年度は、支援者・協力者及びパートの雇用により、多世代がふれ合う場所・楽しむ場所として、町内外・地域住民の来訪・利用者や市外からの見学者等を迎えたことや居場所ハウス各種事業の準備・開催に対応したことは、今後の運営・活動の継続の励みとなった。なお、居場所ハウスの果たす重要性を考え、役割分担を再認識し活動することが肝要と考えます。

さらに継続運営のためには、人材の確保及び会員の拡大・企業寄附の勧誘と自主事業の改善等による財政基盤の確立を図り、自主運営が求められる。

※企業からの寄付等 豊島建設(株)様・(株)匠建設様・大船渡温泉様・西館冷蔵(株)様・基石給食様・(株)まるたけ商店様・お食事処岬様・細川歯科様・ライフ工業(株)様(簡易トイレ) 厚くお礼申し上げます。

なお、災害公営住宅・防災集団移転住宅の転居がほぼ完了しており、高齢者・被災者の心身のケアや孤立の防止及びコミュニティの創出のために、居場所ハウスへの期待と役割が大きく要求されることから、組織・活動体制の充実強化を図るためにも、絶対的に支援者・協力者の確保が肝要である。

② 定例会の開催

毎月 1 回、運営状況と翌月の行事や課題及びコアメンバーの当番決定や改善点等について、報告・協議を実施してきた結果、食堂の運営やメニューの改善等、建物修繕箇所の提言、メンバーから催事の円滑な開催等に対する質疑・発言もあり、円滑な運営・活動のサポートとなっている。気づいた事、運営の改善点については、①食堂メニューの改善による販売②夜間の会場利用の促進③農園の耕作面積、野菜の不足解消と活用範囲の拡大④催事等に対する参考とする意見交換があった。

今後においても、様々なことを、多くの事を話し合うことが、円滑な運営・活動に繋がると考えます。

なお、定例会の重要性と協議内容の共通把握には、メンバーが一人でも多くが参加できるよう、お互いに行事等に配慮していただき、連絡を密にしながら開催することが肝要と考えます。最近では出席者が少なくなってきたことが懸念される。

また、新たに外部団体にも、定例会に参加してもらい居場所ハウスの運営・活動に対する協力的提案等が話されたので、今後の活動の参考としたい。(現在は、共生地域創造財団が参加)

③ コアメンバー・協力員による施設運営・活動支援

一週間のうち 3 日間をパート、3 日間をボランティアの協力により、来客の対応や食堂の運営をしてきた。また、朝市や催事等では、コアメンバーやボランティア団体等により施設運営・活動を円滑に実施したとこ

ろである。このような有効的な体制を構築し、継続するために、今後も、多くの町民の皆さんに対し仲間同志で積極的に声掛けし、協力員の拡大に努め、継続的・効果的な施設運営・催事等を実施することが求められていると考えます。

(2) 組織体制の確立と人材育成

NPO 法人居場所創造プロジェクトの運営・活動は、設立から6年を迎え、これまでコアメンバーやボランティア団体等によるご支援ご協力により問題解決をしてきたが、組織体制の確立・会計システム等の充実と円滑な推進のため、先進地視察研修・居場所のこれからを考える会4回・行政との関わり等により運営・活動の進展が不可欠と判断し、遠野市「青笹わいわい館かだるべ」、盛岡市、NPO 法人「サンガ岩手」への先進地視察研修、花巻市へ調理等研修2回、釜石市合庁他へ助成金・運営活動研修2回、いわて復興支援センター寄附セミナー参加、大船渡市・高田市で開催のシニアパワーいわてによる会計ソフトの指導、NPO 法人等に対する労務・総務・会計の研修・講習会3回に参加し、運営・活動のあり方・会計処理方法・助成金の申請方法や食堂メニューの改善等を学んだことは、運営・活動に対する認識を強く持ったことは、運営体制の確立・継続には効果的だった。

なお、各種助成金申請及び運営に際しては、いわて復興支援センター、大船渡市市民活動センター、霞が関ナレッジスクエア等による指導・協力があつたことは、大いに力強く感じており、今後もつながりを太くし継続申請につなげることが肝要と考えます。

また、福島県いわき市、末崎町女性保護の会、東京大学他からの依頼及び数多くの来訪者・見学者等に対する運営・活動状況の説明やきらりえん旅・我が街バンザイ他メディアの取材対応など、数多くの見学・訪問者との出会いは、今後の居場所ハウスの運営・活動の進展に繋がるものと考えています。

(3) 被災者交流歓迎会・四周年記念感謝祭・朝市合同開催

6月17日(土)、災害住宅の高台移転が完了したことやオープンから四周年を迎えたことから、これまでの運営支援・協力や施設利用への感謝を込めて、記念感謝祭を開催した。オープニングとして祝の餅まき、末崎町の老人クラブ・同町出身の歌手大友芳也さんの出演及び新鮮野菜・魚介類・きそば・焼き鳥・衣類・苗などを販売する朝市コーナーのほか、大判焼きの出店・フリーマーケットなどが会場内にズラリ並び、多くの来場者で賑わった。

この祭りには、会員や被災者支援員など約50名のメンバーが結集・協力し開催された。好天にも恵まれたことや無料シャトルバスの運行により約400名の参加があり、開始時間前から、町内の子供から高齢者まで多くの住民が来場し賑わった。その中で、被災者を含め参加者は、前回に増して様々な人々が来場しており、大変有意義で効果的な交流会で終日賑わったところです。

(4) 朝市の開催

朝市の開催は、毎月第3土曜日に、毎回約10店舗以上の出店があり、居場所ハウスのメンバーやボランティアの皆さん(約15名)の協力により、賑やかに充実した内容で開催されております。

朝市は、町内外から居場所農園の野菜・生花・衣料品・鮮魚・郷土食品・オリジナル焼き鳥・海産物・地域の商品が出店します。毎回、周知等の効果があり、高台移転者等の来場者が増加しており、毎回平均70名の来場があり賑わっています。

このことは、地域の食生活環境の向上や親睦交流の場となるとともに、つながり・ふれあひ場の創出と新たな地域コミュニティの形成に寄与されているものと確信します。

(5) スマイル食堂の開設

震災後、近隣地域には、特に、高齢者被災住民にとっては、気軽に食事ができる飲食がほとんどないため、暮らしにくい日常生活となっている。そのことから、2015年5月に食堂をオープンした。居場所ハウスの支援者やボランティアの皆さんの協力及びメニューなどの試行・改善を重ねて、木曜日を除く毎日昼

食を提供してきた。徐々に来場者が増加しており、日常生活において地域住民・災害公営住宅住民の食生活・利便性の向上及び交流・ふれあいの場となっている。(利用者数延べ2,825名、別紙参照)

今後もメニュー等の改善・運営の努力・一部の地域、災害住宅に配達を周知し、皆さんに喜ばれるスマイル食堂を目指すこととしております。継続するには、高齢化等による調理メンバーの確保が課題となっているので、町内に居場所通信・声掛け等による確保が肝要と考えます。

(6) 居場所農園づくり

居場所ハウスでは、2013年の夏から「居場所農園」をつくり、朝市での販売や食堂で使用するため、多種類の野菜をつくり育ててきた。29年度は、毎日居場所ハウス前での直接販売を実施し、高台移転者等の食生活の一助となった。

今後は、町内及高台移転者の方々にも、体験型農作業の開催に向けた声掛けを行い、交流の場や活躍の場の創出と生活支援に努めるとともに、今後も、居場所農園を継続するため、町民に対し協力の呼びかけを積極的に実施することが肝要と考える。

(7) 居場所ハウス納涼盆踊り・び雛祭りとお茶会・ミズキ団子づくりと餅つき会の開催

①8月15日に納涼盆踊りを開催したところ、曇天であったが約250名の参加者でにぎわった。

地域に伝わる伝統文化・行事を学びながら、末崎町の風土に受け継がれていくことの大切さや地域住民及び被災者と帰省者が楽しみながら交流を深め、地域コミュニティの創出実現を目指すため開催した。お盆の帰省者や地域住民の日常生活のリフレッシュになったものと確信する。

今後も継続し開催する意義があるものと感じたところです。各コーナー運営は、居場所メンバーと地域の若者や婦人会、カリタスジャパン大船渡ベースなどボランティアの皆さんの協力支援で、手作りうちわ・射的ゲーム・ヨーヨー釣り・流しソーメン・焼き鳥・スイカ割り・花火・ビアガーデンも好評で、夏のひとときを過ごした。夕市終了後に、多くの各コーナーが開店できたことは、催事を大きく盛り上げた。

②2月18日(日)、雛祭りとお茶会の開催では、古くから伝わる伝統文化を継承することが大切であるとの思いから、町内住民や仮設住民を対象に開催した。現代の雛人形と昔の土作り雛人形を対比しながら観賞した。同時に茶道の滝田先生をお願いし、親子や来場者を含め、抹茶をいただきながら親子で楽しく絆を深めた雛祭りとなり、地域住民や中国水産研修生他32名の参加があり楽しく盛況なひな祭りとなった。これらの文化の継承を、工夫を重ねながら積極的に推進して行きたい。

③1月16日(土)、ミズキ団子づくりと餅つき会は初開催で、最近あまり行われなくなった小正月行事を楽しんでもらい、家庭でもこれから続けてもらうために開催した。今年初めて企画したもので、平地域の親子12名が参加した。この日は末崎町老人クラブのメンバーが作り方の見本を見せたあと、小さく丸めて水木に飾った。続いて杵を使って本格的な餅つきに親子で挑戦した。この後つきたてのきな粉餅とうどんを美味しく食べた様子であった。地域に根付かせる文化の継承として、今後も継続して行きたい。

(8) 居場所ハウス親子物づくり教室の開催(どこ竹 in まっさきの協力)

①7月30日の夏休み親子・祖父母物づくり教室では、どこ竹 in まっさきの皆さんの協力を得て、親子・祖父母30名と多くの参加があり、竹細工によるカブトムシや、牛乳パックを使用したエコトンボづくりを真剣に工作の楽しさを体験した。

このことにより、さらなる親子・祖父母のふれあいを深めるとともに絆をより一層強めたものと思います。

②1月13日の冬休み親子物づくり教室では、昨年に続き防災集団移転者の大場久男さんの協力を得て、親子13名が参加して、親子・祖父母が共同で「状さし」作りを楽しみ体験した。

このことにより、さらなる親子・祖父母の連帯感の醸成やふれあいと絆をより一層強めたものと思います。

(9) 絵手紙教室

9月24日、居場所ハウスで初めて絵手紙教室を開催、市内各地から9名が参加した。参加者は始めに輪郭を描くための筆遣いを学び、その後は野菜・果物をモデルに温かみと各自の個性がある絵手紙を完成させ、充実した表情を見せていた。絵手紙の魅力を感じ好評につき、3月24日、第2回目の絵手紙教室を開催、町内外から10名が参加した。

(10) 末崎の歴史を学ぶ会

10月29日開催の末崎の歴史を学ぶ会は、末崎の昔を語る会事務局長の新沼紀三氏を講師に開催された。当日は、町内外から約10名の参加があった。今回はバスに乗って、船河原の採金跡・雷神社から始まり、長源寺、中森熊野神社、西館城跡などを回った。歴史ある神社や史跡を巡って興味深い様々な歴史の話に思いをはせ、熱心に聴き入っていた。普段歩かない場所に入り、新たな発見の連続と祖先の暮らしを思いを浮かべ、長い時の流れを感じ取った。これからも、機会をとらえ継続開催して行きたい。

(11) 健康・暮らしの困り事相談会・介護講座

毎月1回、地域住民・高台移転住宅住民に対して、住宅再建の手続きや日常の健康・困り事の相談及び介護講座を開催し、日常の生活環境改善・向上のため、行政書士・元看護師を委嘱し「健康・暮らしの困り事・介護相談会」を開催したところ、暮らしの困り事相談には9名の相談、介護講座には毎回多くの参加があり、解決に向けた事案や参考になった生活情報も得たことは、一定の成果があったものと考えます。

(12) 笑いヨガ体験教室

3月10日、初めて居場所ハウス主催の笑いヨガ体験教室を、盛岡の釜沢俊一氏を招き開催、この日は地域住民19名が参加。参加者たちは、笑い声をあげながら手拍子をしたり、握手をしたりと様々な動きに挑戦。始めはわざとらしさを含んでいた笑いも、時間がたつにつれて自然な笑いと変わり、体操を通じた触れ合いを楽しんだ。参加者は「笑い」にちなんだ様々な運動を楽しみ、健康への意識を新たにしたい様子で、機会があったら参加したいとの声が多くあった。

(13) 子ども一時預かり(わらしっこ見守り隊)

4歳から6年生までを対象に、保護者の方が一時的な都合で世話ができない子どもを無料で一時預かりし、子ども・子育てを支援するため、毎週土曜日・振り替え休日の月曜日・学校行事等による臨時休校日の10時から16時まで、元教員と保母を中心に、わらしっこ見守り広場を開設している。利用者は少ないが、夏、秋のわらしっこ広場の開催や行事における見守りを実施したことは、大いに評価されることです。今後も、地域の実情を見極めながら、継続実施することが肝要と考えます。

(14) 長寿健康講演会

3月10日(土)、居場所ハウス主催の長寿健康講演会を、岩淵内科医院院長岩淵正之医師を講師に開催したところ、町内外から約40名の参加があった。先生は、長生きするためには、「つながり」『ふれあい』の大切さや「これからの在宅医療」と題し、家族と患者がお互いに会話することの重要性、救急車が搬送する症状の程度など、様々な病気に対する対応について話され、健康で長生きするための貴重な講演となったところです。

(15) 居場所健康サロン

毎週1回水曜日、町民を対象に、超高齢化社会や高台移転者等の孤独死・生活不活発病を防ぎ、日常の生活を健康で過ごすために、居場所健康サロンを開催した。体操・様々なゲーム・お楽しみ会・紙芝居等を実施したところ、交流するなかで触れ合いも生じ、平均12名の参加があり増加傾向は嬉しい、毎回楽しい健康サロンとなっている。このことは、日常の生活環境向上にも大いに役立っていると確信します。今後も健康で過ごすために、皆さんとともに知恵を出し合い継続できればと考えております。(健康サロン48回開催)

(16) 夜間利用・活用

居場所ハウスでは、午後4時から午後9時までの利活用を普及促進し、利便性の向上に努めてきた。29年度は、一部の団体と子どものエンパワメントいわてが、「学びの部屋」として使用しており、利活用が図られている。今後も、居場所通信や利用者等に周知し、より一層の利活用に努めるものとする。(2017年度利
用延数 1,553名、別紙参照)

(17) 寄付金・助成金等の活用

地域の様々な人々が、誰もが気軽に立ち寄り、自分なりに役割を持ちながら、楽しく自分らしくいられる「居場所」をモットーに建設された、多世代交流施設居場所ハウスの運営・活動に対する助成金により、以下の主な事業を実施した。

※今年度の助成金対象

- (1)東日本大震災現地NPO 応援基金 2,062,074円(4ヶ月分対象)
- (2)29年度岩手県NPO等復興支援事業助成金 2,680,000円(10ヶ月分対象)
- ①有給ボランティア4名及びパート雇用4~5名による、事業運営、活動・日常の施設等の管理・事業分光熱水費に対する経費とした。
 - ・パート給料・有給ボランティア賃金 3,674,250円・福利厚生費 4,339円
- ②各催事・講習会・教室等の謝礼や必要とする物品、材料等の購入により、10ヶ月分の事業開催等の運営・活動を効果的に実施した。
 - ・催事費 554,366円
- ③地域住民や高台移転者及び来訪者等に対する食事の提供用とする一年間分を購入し、食堂運営を行った。
 - ・食材費 491,143円
- ④一年間のまつり・講習会・教室等のチラシ、ポスター印刷や新聞広告の掲載により、各種事業の開催や多世代交流施設居場所ハウスの普及宣伝に努めた。
 - ・印刷製本・広告宣伝費 437,235円
- ⑤居場所コミュニティカフェの運営に関わる、コーヒー・ゆず茶・ソフトクリーム等を来館者や行事参加者に提供し、親睦交流やふれあいの場の提供に努めた。
 - ・コミュニティカフェ材料費 69,248円
- ⑥居場所ハウスや食堂と各種機器で使用している水道・電気・ガスを使用して、各種事業の開催や多世代交流施設居場所ハウスの運営・活動を実施した。
 - ・水道光熱費 394,621円

(18) 催事及び各種講習会と教室等の開催

- ①子どもの日・鯉のぼりまつり
 - ・5月3日(水) 10:00~13:00 末崎町老人クラブ女性部の踊り・大友芳也さんの歌の出演や縁日など、約200名の参加
- ②自立再建者・高台移転者歓迎交流会・四周年記念感謝祭・朝市合同開催
 - ・6月17日(土) 9:00~13:00 約150名の参加者
- ③夏休み親子物づくり教室の開催
 - ・7月30日(日) 10:00~12:00 30名の参加者
- ④町民・帰省者・被災者支援親睦交流のための納涼盆踊り・夕市合同開催
 - ・8月15日(日) 15:00~20:00 約250名の参加者
- ⑤居場所ハウスのこれからを考える意見交換会
 - ・10月3日(火) 13:30~16:30 約16名の参加者

⑥藍染体験教室（サンガ岩手講師）

・10月24日（火） 10：00～12：00 約11名の参加者

⑦末崎の歴史を学ぶ会の開催

・10月29日（日） 10：00～13：00 9名の参加者

⑧新そば打ち体験講習会の開催

・11月11日（土） 10：00～12：00 14名の参加者

⑨お菓子作り教室

・11月25日（日） 9：00～13：00 15名の参加者

⑩五目ふかし・椿ゆべしづくり教室の開催

・12月3日（日） 10：00～12：00 15名の参加者

⑪親子クリスマスケーキづくり教室の開催

・12月24日（日） 10：00～12：00 34名の参加者

⑫親子ミズキ団子・餅つき体験会

・1月6日（土） 13：30～15：00 15名の参加者

⑬冬休み親子物づくり教室の開催

・1月13日（土） 10：00～12：00 13名の参加者

⑭笑いヨガ体験教室

・1月13日（土） 10：00～12：00 19名の参加者

⑮雑祭りとお茶会

・2月18日（日） 10：00～13：00 32名の参加者

⑯長寿健康講演会の開催

・3月10日（土） 14：00～15：00 約40名の参加者

⑰朝市開催

・毎月第3土曜日、9：00～11：30、4月21日（土）から3月17（土）までの計12回（催事と合同開催も有）

⑱居場所健康サロン

・毎週水曜日、10：00～11：30、4月4日（水）から3月14日（水）までの計48回の開催
（3月14日（水）健康ミニ運動会・体力測定開催、20名参加）

⑲ノルディクウォーキング

・毎月第4月曜日、10：00～12：00、4月23日（月）から3月26（月）までの計12回の開催

⑳健康体操

・毎月第2日曜日、10：00～11：30、4月8日（日）から2月10（日）までの計10回の開催
（3月14日（水）健康ミニ運動会・体力測定開催、20名参加）

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
地域コミュニティ支援事業	・多世代交流イベント・講習会等の開催(別紙資料のとおり)	29年4月1日 ～ 30年3月31日	居場所ハウス	別紙資料のとおり	別紙資料のとおり	7,728

学術、文化、芸術振興推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・図書スペースの提供 ・指導者他を招いて陶芸、音楽活動 ・舞踊、囲碁、雑祭りなど伝統文化の継承 	同上	同上	同上	同上	40
情報提供活動事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、Facebook、チラシ、地方紙、記録誌を活用した広報活動 ・調査、視察を目的とする見学者への対応資料の作成 	同上	同上	同上	同上	437
調査、研究事業	居場所ハウス開催のイベント、朝市に対する意識をアンケートで調査し、運営・活動に反映させる	同上	同上	同上	同上	5

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
販売支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂開設による居場所ハウスの運営資金獲得及び地域の高齢者等の生活環境向上支援 ・朝市開催による郷土食品、野菜、衣類等の販売支援 	29年4月1日 ～ 30年3月31日	居場所ハウス	15	1,732

平成29年度 活 動 計 算 書

NPO法人「居場所」創造プロジェクト

【税込】(単位:円)

自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	53,000		53,000
賛助会員受取会費	140,000		140,000
会員受取入会金	13,000		13,000
【受取寄付金】			
受取寄付金	239,000		239,000
交流会寄付収益	861,371		861,371
【受取助成金等】			
受取助成金	1,762,074		1,762,074
受取補助金	3,634,000		3,634,000
【事業収益】			
その他事業収益		1,892,988	1,892,988
【その他収益】			
受取 利息	21	4	25
雑 収 益	71,389	92,520	163,909
経常収益 計	6,773,855	1,985,512	8,759,367
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
パート給料(事)	1,134,000	772,500	1,906,500
ボランティア賃金(事)	3,019,922	100,000	3,119,922
法定福利費(事)	4,339		4,339
人件費計	4,158,261	872,500	5,030,761
(その他経費)			
業務委託費(事)	119,160		119,160
諸 謝 金(事)	390,000		390,000
印刷製本費(事)	318,903		318,903
旅費交通費(事)	142,258		142,258
催事経費(事)	66,778	26,479	93,257
通信運搬費(事)	116,562		116,562
消耗品費(事)	180,788	87,955	268,743
食 材 費(事)		544,741	544,741
居場所カフェ材料費(事)	82,522		82,522
保守管理費(事)	30,920		30,920
水道光熱費(事)	288,539	193,847	482,386
地 代 家 賃(事)	75,000		75,000
賃 借 料(事)	99,600		99,600
減価償却費(事)	1,764,107		1,764,107
広告宣伝費(事)	183,600		183,600
保 険 料(事)	149,520		149,520
接待交際費(事)	8,524		8,524
研 修 費(事)	6,280		6,280
支払手数料(事)	8,208	1,200	9,408
雑 費(事)	20,473	2,316	22,789
農園経費(事)		3,500	3,500
その他経費計	4,051,742	860,038	4,911,780
事業費 計	8,210,003	1,732,538	9,942,541
【管理費】			
(人件費)			
人件費計	0	0	0
(その他経費)			
会 議 費	2,721		2,721

平成29年度 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

NPO法人「居場所」創造プロジェクト

自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日

通信運搬費	3,640		3,640
その他経費計	6,361	0	6,361
管理費 計	6,361	0	6,361
経常費用 計	8,216,364	1,732,538	9,948,902
当期経常増減額	△ 1,442,509	252,974	△ 1,189,535
【経常外収益】			
経常外収益 計	0	0	0
【経常外費用】			
雑損失	53,068		53,068
経常外費用 計	53,068	0	53,068
税引前当期正味財産増減額	△ 1,495,577	252,974	△ 1,242,603
経理区分振替額	0	0	0
当期正味財産増減額	△ 1,495,577	252,974	△ 1,242,603
前期繰越正味財産額	29,039,132	0	29,039,132
次期繰越正味財産額	27,543,555	252,974	27,796,529

平成29年度 貸借対照表

NPO法人「居場所」創造プロジェクト
全事業所

[税込] (単位: 円)
平成30年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	6,550		
普通預金	3,114,765		
現金・預金計	3,121,315		
(売上債権)			
未収金	654,000		
売上債権計	654,000		
流動資産合計		3,775,315	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物	24,413,913		
什器備品	363,520		
有形固定資産計	24,777,433		
固定資産合計		24,777,433	
資産の部合計			28,552,748
		《負債の部》	
【流動負債】			
未払金	100,963		
短期借入金	655,256		
流動負債計	756,219		
負債の部合計		756,219	
		《正味財産の部》	
【正味財産】			
前期繰越正味財産額	29,039,132		
当期正味財産増減額	△ 1,242,603		
正味財産計	27,796,529		
正味財産の部合計		27,796,529	
負債・正味財産合計			28,552,748

計算書類の注記

NPO法人「居場所」創造プロジェクト

平成30年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

計算書類の注記は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

【固定資産の減価償却の方法】

建物資産：定額法
 その他資産：定率法

【事業費の内訳】

事業費の区分は以下の通りです。明細は別紙に出力します。

【活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳】

【税込】（単位：円）

内容	金額	算定方法
居場所ハウス内各種業務	47,625円	3人×12時間×@750円=27,000円（ボランティア）
		1人×27.5時間×@750円=20,625円（臨時職員）

※単価750円はパート・ボランティア賃金単価と同額

【使途等が制約された寄付等の内訳】

【税込】（単位：円）

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
JPF②共に生きる	0	957,703	957,703	0	前期に交付を受けた助成金2,893,158円のうち、前期末未使用額957,703円は前受助成金として負債計上していましたが、当期に事業の実施に伴い受取助成金として3,045円を活動計算書に計上残額954,658円は返還しております。
NPO応援基金	0	1,952,040	1,952,040	0	前期に交付を受けた助成金2,800,000円のうち、前期末未使用額1,952,040円は前受助成金として負債計上していましたが、当期に事業の実施に伴い受取助成金として1,759,029円を活動計算書に計上、残額193,011円は返還しております。
助成金 計		2,909,743	2,909,743	0	
岩手県NPO等復興応援補助金	0	3,634,000	3,634,000	0	今期に交付を受けた金額2,980,000円及び最終交付金654,000円との合計金額3,634,000円は活動計算書に計上、最終交付金654,000円は貸借対照表に未収金として計上しております。
補助金 計		3,634,000	3,634,000	0	
合計	0	6,543,743	6,543,743	0	

【固定資産の増減内訳】

【税込】（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
(有形固定資産)						
建物	31,463,061	0	0	31,463,061	△ 7,049,148	24,413,913
什器 備品	2,241,127	0	0	2,241,127	△ 1,877,607	363,520
合計	33,704,188	0	0	33,704,188	△ 8,926,755	24,777,433

平成29年度 財産目録

NPO法人「居場所」創造プロジェクト
全事業所

[税込] (単位: 円)
平成30年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現金	6,550
普通預金	3,114,765
農協 居場所コミュニティ	(2,767,734)
農協 朝市食堂事業	(346,424)
農協 県復興支援補助金	(607)
現金・預金 計	<u>3,121,315</u>

(売上債権)

未収金	654,000
売上債権 計	<u>654,000</u>

流動資産合計

3,775,315

【固定資産】

(有形固定資産)

建物	24,413,913
什器 備品	363,520
有形固定資産 計	<u>24,777,433</u>

固定資産合計

24,777,433

資産の部 合計

28,552,748

《負債の部》

【流動負債】

未払金	100,963
短期借入金	655,256
流動負債 計	<u>756,219</u>

負債の部 合計

756,219

756,219

正味財産

27,796,529